

## 奈良時代の土器二段重ねの埋納遺構と縄文時代の貯蔵穴

(仮称)大森遺跡、平城京跡(左京五条四坊十・十五坪、東四坊大路) 大森町

JR 奈良駅の南側約 500m では、平成 13 年度から、JR 奈良駅南特定土地区画整理事業に係る発掘調査を実施しています。平成 19 年度は、平城京の条坊復元で、左京五条四坊十坪・十五坪、東四坊大路にあたることろの発掘調査を実施しました。この調査では、奈良時代の遺構のほか、縄文時代、弥生時代の遺構もみつかりました。

**縄文時代** 晩期 (2,400 ~ 3,000 年前) の土坑(穴) が 8 基みつかりました。大きさは直径 1.6m 前後です。底にドングリの仲間と思われる堅果の皮が残っていましたので、堅果類を食料として保存した貯蔵穴と考えられます。

**弥生時代** 建物、土坑、溝、河川がみつかりました。建物は地面を掘りくぼめた堅穴式で、床の周囲と建物の外側にのびる排水溝があります。

**奈良時代** 十坪・十五坪では、掘立柱建物・塀、井戸、溝等とともに、十五坪の東辺に沿って東四坊大路(幅約 17m) が確認できました。

十坪では、蓋をした須恵器の杯を 2 段重ねにして埋納した小土坑がみつかりました。類例のない遺構です。また、精巧に造られた井戸がみつかりました。その構造は、直径 0.8m の削り抜いた丸太材と縦板を下段に据え、周りに石を敷き詰め、上段に横板を組みあげたものです。



調査位置図 (1/25,000)



縄文時代の貯蔵穴



奈良時代の井戸(十坪)



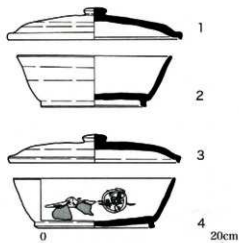
東四坊大路(北西から)

**重ねて埋められた土器** 左京五条四坊十坪で、類例のない埋納遺構が見つかりました。蓋をした須恵器の杯が、2つ上下に重ねて穴の中に埋められていました。杯・蓋ともに奈良時代の終わり頃のもので、蓋の直径は19 cm前後、杯の直径は17～18 cm、高さが5.5 cm前後です。穴の大きさは南北約26 cm、東西約29 cmの楕円形、深さは約12 cmなので、重ねた土器を埋めるためにちょうど良い大きさの穴が掘られていました。上段の杯の中には何も残っていませんでしたが、下段の杯には和同開珎という銭が4枚以上、ほかに小石、鉄滓、小さな土の塊などが納められていました。銭やその破片は土器の底から浮いた状態で見つかり、何か有機質のものの上に置かれて納められたと思われます。



下段土器の内容物

**平城京の埋納遺構** 埋納遺構とは文字通り「何かを意図的に埋めて納めた跡」のことで、平城京の宅地内の埋納遺構は、今までに100例以上見つかっています。今回の埋納遺構は、銭などを納める容器として蓋をした須恵器の杯を使っています。複数の土器を重ねて埋めている例はいくつかありますが、蓋をした土器を重ねて埋めていた例は初めてです。また、鉄滓などの金属の滓を納めている例も1件確認しているだけで、内容物から言っても類例の少ない埋納遺構と言えるでしょう。埋納遺構の性格は、建物や土地に災いが起きないように行う地鎮、または生まれた子供の長寿などを祈って、その胎盤を埋める胎衣埋納や墓と考えられています。今回の埋納遺構はその性格を決めるまでに至っていません。



埋納遺構出土土器 (1/4) 1・2：上段 3・4：下段



重ねて埋められた土器の出土状況 (東から)